

団体名 藤沢市剣道連盟

創 設 昭和 27 年 6月

体協加盟 昭和 28 年 4月

所 在 地 〒252-0802 藤沢市高倉2300

役 員 会 長：久木田 善藏

副会長：伊 澤 俊彦

副会長：市 成 義彦

副会長：幸 野 實

理事長：阿 部 安行

会員構成 団体数： 49 個人会員：232

会員総数 766 名

(平成17年 4月 1日)

藤沢市剣道連盟の歩み

【創設期】(昭和27年から33年)

藤沢市剣道連盟の発足は昭和27年6月に逆のぼります。鎌田一成氏宅にて大村隆、伊澤善作、高科明、臼井秀雄が会合して藤沢市の剣道の稽古場として済美館を使用できないものかとの議論に達しその事を当時の藤沢市長 金子小一郎氏に鎌田氏が訪ね金子市長の同意を得ると共に藤沢市剣道連盟の初代会長を同時にお願い致しました。その結果次の様に役員が選出されました。会長：藤沢市長 金子小一郎、副会長：鎌田福太郎、中村豊雄、師範：大村隆、伊澤善作、理事：高科明、会計：臼井秀雄、以上の役員で連盟発展に向けて始動の運びとなりました。

また、この年には長後地区に諸節清旭が中心となり長後剣友会（現在は長後剣道協会）が発足されました。稽古場は殖産学校跡（後に長後支所）を借り、青少年の育成指導を行い同時に各地域の剣友親交も深めていきました。その折、大村、伊澤両先生には多大な支援をして頂きました。現在は諸節寛行が中心となり多くの剣友が集い活動しています。

翌年の昭和28年には藤沢市体育協会に加盟し第1回湘南地区剣道大会が済美館に於いて当時としては盛大に開催されました。

昭和30年11月1から3日、秩父宮記念体育館に

於いて第10回国民体育大会が戦後の藤沢市内を話題化されるかの様に華々しく開かれました。剣道並びにしない競技が同時に開催され、会場として使用された秩父宮記念体育館では、観戦する人々で満員となりで熱気にあふれました。当時の藤沢市剣道連盟の先生方も役員として準備に追われ多忙な日々となりました。

第10回国民体育大会の剣道、しない競技は大成功に納め次代に功績を残しています。

(しない競技とは 戦後剣道が禁止されてしまった後、考案された競技)

昭和32年役員の任期満了で会長、副会長は相談役となり新役員には会長：伊澤善作、副会長長島浅五郎、諸節清旭、理事長：高科明、会計臼井秀雄に決まりました。

伊澤会長の恩師の大村先生は相談役となり事実上の大久保彦左衛門役として公私共に指導をして頂きました。

昭和33年6月に伊澤会長が修武館伊澤道場を開き道場訓の一節で「剣は心なり」を唱和する礼に始まり礼に終わる剣道を教えこの後、藤沢市剣道連盟の稽古場となりました。青少年を中心とした市民大会も開催され連盟発展の地盤が固まりつつある時代に入って行く事になります。また、この頃から居合道部も創設されました。



伊澤道場の道場開き市連盟の稽古場となる剣道と居合道はきわめて密接な関係にあり、居合道の基本的な技を抜く事が出来るように昭和44年に「全剣連居合」が制定されました。伊澤善作先生が委員に選出され居合道発展の為

に多大なる尽力をして下さいました。特に各剣道大会前の演武として制定居合と古流の夢想神伝英信流をご披露いただき大会がより引き締まり盛会となりました。現在でもその志を引き継ぎ練成大会前の演武として披露しています。

【活動期】(昭和 43年から 57年)

昭和43年4月には廣吉義孝が大鋸地区に心剣会藤沢道場を開き青少年の指導育成を行うと同時に一般の方には居合道の指導を行う。現在は廣吉康成が後を引き継いでいる。

昭和47年以降になると藤沢西部と南部地区に各剣友会が次々と発足されて行くことになる。4月に高科明が中心となって御所見公民館に於いて御所見剣心会を発足させ青少年の育成指導を行い多くの少年少女が稽古に励む。

また、同時期に遠藤地区にて浅井正昭、山本幸男が中心となり遠藤公民館で遠藤青少年剣道クラブを発足させ青少年から一般まで剣道の稽古を楽しむ様になり親子で入会、参加が増え盛り上がりを見せた。時には剣道以外の触れ合いとしてレクリエーション活動をするなど時代に加速をして現在でも小磯雄一を中心に110名を超える会員数である。

昭和48年6月には藤沢青少年会館に於いて青少年剣道クラブが発足され指導者に由井大が選任された。当初は働く勤労青年、初心者を対象に活動していたが少年少女の入会希望者が多くなりやがては月例試合を行うまでに発展する。現在は秩父宮記念体育館を中心に活動している。昭和52年、新興住宅地として滝の沢地区がこの頃に栄え「お母さんと子供の触れ合い」と言うテーマで剣道が取り入れられ指導者に原弘之、中塚亮次が選出されお二人が中心となり滝の沢剣友会が4月に発足される。当時の会員数は130名を越す人数であり滝の沢小学校体育館も子供達の元気な声とお母さんの声援そして竹刀の響き指導者の激声で有意義な親子の触れ合いとなる。

昭和54年5月には善行地区に剣修館川崎道場

(当時は栗林道場)が栗林久一により開かれ3年後に川崎渉が引き継ぎ青少年から一般まで指導を行い夏には道場で合宿をする等して青少年、一般者とのコミュニケーションを基とした指導法で子供達から人気を集めた。

昭和57年、新役員に会長：高科明、副会長：石井皓、佐藤耕之助、山本幸男、理事長：久木田善藏、事務局：伊澤俊彦に決定されさらなる飛躍の年を迎える。また、この時代に入ると青少年による剣道人口が更に増加し剣道時代の年となり毎月第2日曜日には市合同稽古会を行う事として現在も小学生から一般まで稽古に励んでいる。この頃から剣道の理念「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。」を基とした指導法が取り入れられ青少年の健全育成と底辺の拡大を主とした連盟の運営、発展に努めて行く。

同年1月、高科建治が遊行寺近くの大鋸に信明館高科道場を開き道場連盟が主催する大会には毎年出場して好成績を得てノビノビとした指導法で青少年の健全育成に当たっている。

【活動期】(平成 3年から 12年)

平成3年度より会長：山本幸男、副会長：久木田善藏、川崎渉、理事長：石井皓、副理事長：伊澤俊彦、事務局：高科建治の新役員となった。



練成大会に向けて練習に励む少年少女
平成6年11月には第1回藤沢少年少女剣道練成大会が当時の辻堂駅付近に隣接していた関東特殊製鋼株式会社と藤沢ロータリークラブの協賛

を得て開催される。藤沢市長他多数の御来賓を迎え演武では制定居合と古流の夢想神伝流を修武館館長：伊澤俊彦、竹内迪子が披露していただき大会を活気付けた。試合の内容は少年少女を主体とした団体戦及び個人戦を行った。

団体戦では各支部の子供達が一致団結してお互いの健闘をたたえ合い涙する場面、抱き合い手を握り合うなど普段では見られない子供達の姿も見られ、指導者の先生方そして父母の皆さんも一緒になって試合内容に浸った。

平成9年度より会長：川崎渉、副会長：久木田善藏、市成義治、理事長：伊澤俊彦、副理事長阿部安行、事務局長：諸節寛行と改選された。

平成12年度の第7回の練成大会より会場を秋葉台文化体育館に移し一般の部の3人制も取り入れより充実した大会となった。

また、同年から日本剣道形と審判法の講習会を毎月の市合同稽古会の時に行うと共に県内外の剣友の方々を招いて内容の濃い稽古会になるように努力している。

【最近の状況】（平成 13年から現在）

平成13年には竹内迪子を中心として藤沢市剣道連盟の婦人部が設立され毎週土曜日に婦人部による稽古会が川崎道場を借りて行われ地区、他市での大会には積極的に参加し日頃の稽古の成果が発揮されて上位入賞し活躍している。また、今後も更なる婦人部員のレベルアップと部員数増加を願っている。



婦人部の竹内迪子六段の稽古風景

平成14年度より高段者稽古会（研究会）が範士八段 川崎渉、教士七段 久木田善藏 教士七段 市成義治が中心となり藤沢市剣道連盟の高段者のレベルアップを目標に新たに稽古会を行う事になった。高段者に必要な知識、風格、気位、技術そして青少年育成の為の正しい指導方法を長年の経験から出る技前と知恵、決して読本で学ぶ事の出来ない、いわゆるノウハウを伝授して頂く事とそのことをこれからの青少年に伝えて行くように手とり足取りの指導をいただいている。

また、稽古後の反省会のアドバイスも適切にいただき大変内容の濃い高段者稽古会となった。近年では他市からの参加者、指導して下さる先生方も増え情報交換などを行い良い雰囲気となっている。また、他市の先生方、剣友の方々から藤沢市剣道連盟はなかなか良い雰囲気であるとの褒めの言葉なども頂いている。

同年4月より会長：久木田善藏、副会長：伊澤俊彦、市成義治、幸野實、理事長：阿部安行、副理事長：熊谷安男、事務局長：諸節寛行と改選され指導体制の確立を目指して行く事になる。同4月には関東特殊剣道クラブが形をかえて、小早川智夫が発起人となり互心会を発足させる。稽古場は主に明治中学武道場で行い青少年の指導を行いながら地域の方々の参加を得て共に白熱した稽古を行っている。

同年11月、藤沢市剣道連盟50周年記念大会では他市の剣道連盟、選手の皆さんを招いて記念試合を盛大に行う。大会前の演武では、日本剣道形 打太刀を教士七段 阿部安行、仕太刀には教士七段 永島修治の両教士が演武をして下さり50周年記念に相応しい演武となり目を見張る太刀ふるまいであった。

また、10年後の記念大会も企画、検討中であり今から着々と準備が進んでいる。

平成16年5月、修武会が伊澤俊彦を中心に発足された。稽古場は主に鶴沼中学の武道場で行い剣道と居合道の両道を行っている。（居合道は

秋葉台体育館でも行っている。) 剣道での活動指針として、打って反省、打たれて感謝の互いに相手を尊重しあいながらの稽古で少年少女から学生、一般と多くの剣道を愛して下さる皆さんと一緒に苦しみの中に楽しさと爽やかさを探しあって和を大切にしながら稽古を行っている。居合道では全日本剣道連盟が制定する制定居合と古流の夢想神伝英信流を主として行っている。居合道に於いても初心者から高段者まで受け入れ幅広く活動している。また、居合道の各大会に於いても積極的に参加して上位入賞を果たし県内外にも功績をのこしている。



居合道部の稽古風景

以上が昭和27年6月から発足した藤沢市剣道連盟の活動内容の概略です。

【今後の活動指針】

藤沢市剣道連盟は未来に向け更なる発展を目指す為、青少年に於ける育成指導の具体策として礼に始まり礼に終わる剣道を基本方針に掲げ、礼儀ある元気な「子」を育て信義ある「人」となり、忍耐力ある自己となり、心やさしく強い大人になるように全力を尽くして指導し精進してまいります。

最後になりましたが、藤沢市体育協会60周年記念を迎えられたことを役員はもとより会員一同、心からお祝い申しあげると共に各協会、連盟、連合のご発展を日々願って折ります。

藤沢市剣道連盟一同

【登録団体支部】

クラブ・剣友会	16団体
道場	5団体
中・高等学校	28団体

【全国・県下大会の主な成績】

剣道		
*総合体育大会		
昭和43年優勝	33、39、44年二位	41年三位
平成5年優勝		
*青年大会		
昭和36、40、51年優勝	33、44年二位	
	34、40、45、50、55年三位	
*県下剣道大会兼青少年練成大会		
昭和51年優勝	50年二位	44、48年三位
県青少年剣道選手権大会		
昭和39年	12歳の部優勝	山口治行
昭和55年	中学女子の部優勝	渡貫明美
昭和60年	13歳の部優勝	三留 勝
昭和61年	19歳の部優勝	三留伸一
*全国高齢者剣道大会		
平成7、11年	優勝	久木田善藏
*全日本少年剣道練成神奈川県大会		
平成11年	中学生の部優勝	吉川豪一
*県母子対抗剣道大会		
平成13年	小学生の部準優勝	古知屋博康 古知屋敦子
居合道		
*全国居合道大会団体		
昭和41年	総合4位	伊澤善作
*県居合道大会		
昭和56年	5段の部準優勝	伊澤俊彦
平成7、9、10年	4、5、6段の部準優勝	横塚正雄
平成16年	6段の部優勝	横塚正雄
*関東居合道大会		
平成10、11年	4,5段の部優勝	横塚正雄
平成14年	6,7段の部優勝	竹内迪子
*全国各流選抜大会		
平成11年	無段の部優勝	大野和彦